

○グループワーク 「学校と地域の連携を推進する方策 —学校から地域を語る—」

学校と地域の連携は必要ですが、現実の連携・協力はそれほど容易ではありません。そこで、学校から見た地域との連携の問題や希望を自由に出していただき、今後の学校と地域との連携を進めるためのポイントについて話し合いました。

ここでは、板橋区教育委員会及びボランティア・市民活動学習推進センター“いたばし”の皆さんとともに実施した研修会での声をご紹介します。

〔グループワークの展開〕

- ①ワークシートに学校と地域の人たちの関わり方の現状について記入する。
- ②グループに分かれて、連携のための「学校の先生方の課題・要望」「地域のボランティアの課題・要望」を記入して意見を出し合う。
- ③グループごとに発表する。

先生の声

- 忙しくて地域との連携ができない
- ・ 十分な打ち合わせを確保できない
- ・ 授業準備が間に合わない
- ・ 授業目標の共通理解が図れない

- 地域の人にとどのように連絡してよいか分からない。
- ・ 地域の人材が多すぎる。
- ・ 情報が少なすぎて地域との連携が図れない。
- ・ 人選のトラブル
- ・ お礼や謝礼のやり方がよく分からない

- 地域に対して教職員の意識が閉鎖的である。
- ・ 外部の人が入るのをいやがる。

- どのようにカリキュラムに位置づけていければよいか分からない。
- ・ 年間単位で計画を立てるために、新しいものを創造したり、取り入れることが困難である。
- ・ 授業の位置づけが難しい。

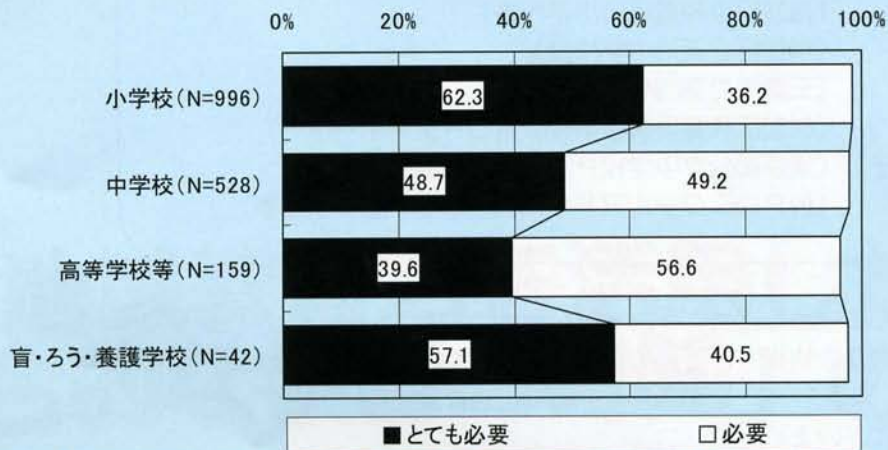
- 地域の人材等がお客扱いになってしまう。
- ・ 地域の人材の人たちに教員側の思いを強く言えない。

- 予算が少ない
- ・ 地域の人を呼びたくても呼べない。
- ・ 無償のボランティアが少ない。



ワークショップの説明を受ける

地域との連携・協働についてほとんどの学校が必要と考えています



「学校と地域の連携・協働に関する調査報告書」 東京都教育委員会 平成 14 年 3 月

- 学校ともっと打ち合わせの時間が欲しい。
 - ・ 授業前に打ち合わせ時間が十分できない。
 - ・ 授業後、先生との話し合いや授業評価の時間が欲しい。

- 授業が体験のみで終わるのではなく、子どもたちによる話し合いの時間も確保したい。

- 特別扱いをされる。
 - ・ 学校に気を遣いすぎる。
 - ・ 学校の都合に合わせてしまう。
 - ・ 教師に言いたいことが言えない。



グループで出された意見をまとめる



グループに分かれて意見を貼り付け

- 学校が何を求めているのか分からない。

- 学校は地域に対して閉鎖的である。

- 年間の教育計画に地域の人材が参画できる機会が欲しい。
 - ・ 子どもの学びを理解した上で学校に関わりたい。

- 地域の人材をうまく学校に出すコーディネーターがない。
 - ・ 専門的能力が無くても授業に関わりたい。(ボランティアなどで)

地域の声

企画・編集にご協力いただいた方々（敬称略）

船木 隆雄（杉並区立杉並第五小学校長）
嶋崎 政男（杉並区立天沼中学校長）
貝ノ瀬 滋（三鷹市立第四小学校長）
生重 幸恵（杉並区教育委員会学校教育コーディネーター）
三上 けい子（東京都公立中学校PTA協議会顧問）
井上 尚子（NPOスクールアドバイス・ネットワーク理事）

この事例集をまとめるにあたり、学校、地域で活動されている方々、関係機関等の多くの皆様方にご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

この事例集についての

お問合せ・ご意見は

こちらへどうぞ

教育庁生涯学習スポーツ部

計画課計画係

TEL03-5320-6853

FAX03-5388-1734

青少年の社会・自然体験活動等プログラム研究開発事例集
（平成14年度）

地域教育力を活用した「総合的な学習の時間」の展開
～地域と学校の協働を進めるために～

発行 東京都教育庁生涯学習スポーツ部
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03-5320-6853

印刷 株式会社 騰栄社
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2丁目2番12号
電話 03-3294-6385

R100
古紙配合率100%
白化度70%再生紙を使用しています